

第2回帯広市自転車活用推進計画策定検討協議会 議事録

1 日時・会場 令和4年10月18日（火）13:30～14:40 市庁舎10階第5A会議室

2 出席者

(1) 委員 高橋 清、村田 浩一郎、西尾 峰明、鎌田 道也、與坂 樹代二、須藤 克志、石崎 雅史、桐山 知彦、深谷 弘明、広沢 正明、高間 裕一、谷澤 正和、佐藤 淳、磯野 照弘、西島 新一、山下 真紀子
(以上、16名、順不同、敬称略)

(2) 事務局 観光交流室長 加藤 帝、観光交流課長補佐 阿部 恭子、都市政策課長 岡田 剛、都市政策課交通政策係長 涌井 一憲

3 会議次第

(1) 開会

(2) 議事

ア 市民アンケート結果の報告について

イ 帯広市自転車活用推進計画の原案について

(3) その他

(4) 閉会

4 議事及び質疑

(1) 開会

事務局から前回欠席された委員を紹介し、開会した。

(2) 議事

ア 市民アンケート結果の報告について

<質疑等>

(佐藤委員) アンケート聴取場所の選定は、自転車を利用している人を狙ったものか。

(事務局) 自転車を利用していない人の状況も聴取する必要があったため、年齢性別問わず人の集まる場所を選定し、聴取した。

(西尾委員) アンケート結果を集約したあとの分析が重要。計画の中に活かしてほしい。

イ 帯広市自転車活用推進計画の原案について

<質疑等>

(高橋委員) 本日、実際に自転車をレンタルして帯広の街を走ってみた。やはり自動車のスピードが速く、自転車は走れない道路もあったが、川縁など気持ちの良い場所もあった。

計画原案について、細かな調整は必要だが、おおまかには仕上がっている。自動車側と自転車側では考えが違うため、自転車側の視点が入っているのが良いと感じた。

意見として、

①計画期間について、10年は長い。適宜見直しではなく、少なくとも中間評価を行うべきである。

②ネットワーク路線について、現状、国道、道道、市道を区別して記載されているが、誰が管理しているかは市民には関係ないため、整備済み、未整備がわかるよう整理する必要がある。また、柏葉高校前の自転車通行空間は素晴らしいが、今後の整備とどう合わせていくのか考えていく必要がある。自転車利用者にとっては、歩道を走ったり、車道を走ったりが混在するため、周知も重要になる。

③数値目標がないので、具体性がないと感じる。計画推進がなされていないというイメージを与えないためにも、施策に実効性があるように表現していく必要がある。少なくともこれだけは実施するという施策に指標があった方がよい。

(事務局) ご意見について次回までに検討、改善していく。

(鎌田委員) 自転車利用ルールを学ぶ機会を年1回でも設けて欲しい。本日は帯広警察署も参加いただいているので、資料提供などでもご協力いただきたい。年代によって行動範囲が変わってくることも意識する必要がある。肌感では高校生の自転車事故は増加している。

(事務局) 皆様の協力をいただきながら、引き続き学ぶ機会を提供していきたい。

(西尾委員) 地域の実情を踏まえ、実効性のある、市民に還元される計画にしてほしい。特定の企業の名称が記載されている箇所があるが、ここだけの取り組みとなるのか。

(事務局) 施策の内容としては、当該施設が当市でアウトドア観光の拠点としていることもあり中心にしていきたいとは考えているものの、当該施設に限った取り組みという意図ではないため、幅広い取り組みと捉えられるよう記載内容を改めたい。

(桐山委員) 帯広署の交通安全教育は、小学生が中心であり、中学生、高校生に対しても実施しているものの、なかなか内容が浸透していかないという課題も感じている。市内の自転車交通量を見ると、栄通や春駒通など交通量が多い道路では、やはり事故が多い印象を受けた。また、これから12月にかけて事故は増える傾向にある。どうしても事故があったあとに啓発を強化していく流れになってしまうが、未然に防ぐために情報を届けていきたい。

(事務局) 皆様の協力をいただきながら、自転車の利用ルール等について周知啓発していきたい。

(3) その他・閉会

事務局から今後の予定をお知らせし、閉会した。

その他、協議会後に提出された意見

(須藤委員) 主に警察による高校生向けの「交通安全講話」を毎年各校で行っている。警察以外の講演も聞かせたいため、講師一覧などの情報がほしい。

校内での自転車ルールの周知ポスターやチラシの掲示は是非行っていただきたい。自転車事故が起こったときの対処方法をポスターやチラシ等に入れ、生徒に徹底させたい。

(佐藤委員) 目標設定の記載や施策の効果に関する評価はどのように行うのか。国や道の計画を踏まえた上での計画であれば、整合性を図った上で客観的な評価指標があってもよいと感じた。